



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 保土谷化学工業株式会社

コード番号 4112 URL <https://www.hodogaya.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 松本 祐人

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 毛利 康宏 TEL 03-5299-8019

四半期報告書提出予定日 2020年11月9日 配当支払開始予定日 2020年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	19,420	10.7	2,792	244.0	2,900	266.2	1,252	122.6
2020年3月期第2四半期	17,549	2.0	811	△28.1	792	△42.5	562	△43.4

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 3,120百万円 (-%) 2020年3月期第2四半期 △377百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	158.40	—
2020年3月期第2四半期	71.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	56,746	39,915	63.2
2020年3月期	54,903	37,040	61.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 35,885百万円 2020年3月期 33,941百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2021年3月期	—	25.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,000	3.3	4,300	48.1	4,500	47.1	2,200	18.4	278.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	8,413,726株	2020年3月期	8,413,726株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	496,607株	2020年3月期	510,700株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	7,910,038株	2020年3月期2Q	7,903,106株

※ 四半期決算短信は従来より監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信（添付資料）3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルスの影響により、経済・社会活動が停滞し、急激に減速しました。
その中、わが国経済は、経済・社会活動が制限され、景気は急激に減速し、未だ厳しい状況にはありますが、一部に下げ止まりの動きも見られます。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行が収束する時期は見通せず、先行き不透明であり、今後も予断を許さない状況にあります。

このような情勢下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比1,870百万円増(10.7%増)の19,420百万円になりました。
損益面では、売上高の増加等により、営業利益は、前年同期比1,980百万円増(244.0%増)の2,792百万円となりました。
また、経常利益は、前年同期比2,108百万円増(266.2%増)の2,900百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比690百万円増(122.6%増)の1,252百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

[機能性色素セグメント]

イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要低迷に加え、新型コロナウイルスの影響により、在宅勤務への移行が加速、印刷需要が減少し、大幅な減収となりました。
色素材料事業は、アルミ着色用染料で用途展開の遅れや、スマートフォン向け販売の伸び悩み等により減少しました。
加えて、新型コロナウイルスの影響により、繊維向け染料の需要が減少し、大幅な減収となりました。
一方で、有機EL材料事業は、スマートフォン向けディスプレイ分野において、液晶から有機ELへの切り替えが進んでおり、需要が増加しました。
また、当社の子会社において、有機EL材料の用途展開として、PCR診断キット用材料(以後、キット用材料)が、複数の診断キットメーカーの採用で、大幅な増収となりましたが、足元では競争激化により、販売量が減少しております。
以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比2,999百万円増(56.2%増)の8,337百万円となりました。

[機能性樹脂セグメント]

ウレタン原料およびタイヤ用接着剤が、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響による繊維、自動車向けの需要減少により大幅な減収となりましたが、足元では自動車向けが徐々に回復してきております。
また、建築材料事業は、新型コロナウイルスの影響を受け、工事の延期や中止等が発生、材料販売や防水・止水工事の需要が減少し、大幅な減収となりました。
さらに、特殊化学品事業は、医薬向け中間体の需要減少等により、大幅な減収となりました。
以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比1,036百万円減(18.0%減)の4,737百万円となりました。

[基礎化学品セグメント]

過酸化水素誘導品は、衣料用漂白剤や家庭用洗剤向けの需要が増加し、増収となりました。
一方で、過酸化水素は、新型コロナウイルスの影響を受け、紙パルプ向けの需要が減少し、減収となりましたが、足元では工業薬品向けで半導体市場を中心に回復してきております。
以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比237百万円減(6.6%減)の3,352百万円となりました。

[アグロサイエンスセグメント]

殺虫剤は、顧客の在庫調整により販売量が減少しましたが、一方で、ゴルフ場向け除草剤の需要が好調に推移し、また、家庭園芸向け除草剤は、新型コロナウイルスの影響による巣籠り需要により増加し、大幅な増収となりました。
以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比252百万円増(14.0%増)の2,049百万円となりました。

〔物流関連セグメント〕

新型コロナウイルスや米中貿易摩擦の影響を受け、輸出の取り扱い量が減少し、大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比112百万円減（11.6%減）の860百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末(9月末)における資産合計は、56,746百万円となり、前連結会計年度末(3月末)比1,842百万円の増加となりました。

主な増減要因は、現金及び預金の増加1,237百万円、投資有価証券の増加1,094百万円、仕掛品の増加527百万円、有形・無形固定資産の増加290百万円、商品及び製品の増加207百万円、受取手形及び売掛金の減少1,883百万円等であります。

負債合計は、16,830百万円となり、前連結会計年度末比1,032百万円の減少となりました。

主な増減要因は、短期・長期借入金の減少560百万円、支払手形及び買掛金の減少505百万円等であります。

純資産合計は、39,915百万円となり、前連結会計年度末比2,875百万円の増加となりました。

主な増減要因は、利益剰余金の増加1,055百万円、非支配株主持分の増加931百万円、

その他有価証券評価差額金の増加767百万円等であります。

以上の結果、自己資本比率は63.2%となり、前連結会計年度末の61.8%から1.4ポイント改善しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、2020年7月31日に開示いたしました2021年3月期第1四半期決算短信において、新型コロナウイルスの影響により合理的に見積もることが困難であることから、

2021年3月期通期の連結業績予想については開示せず、

当第2四半期累計の連結業績予想のみを開示しております。

未だ、当社グループを取り巻く環境は不確定・不透明な状況ではありますが、

当第2四半期累計の実績を踏まえ、第3四半期以降の当社を取り巻く状況等を可能な限り見積もり、現時点において入手可能な情報をもとに検討と検証を実施してまいりました。

それらを踏まえ、2021年3月期通期の連結業績予想は、

売上高は39,000百万円（前期比3.3%増）、営業利益は4,300百万円（同48.1%増）、

経常利益は4,500百万円（同47.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,200百万円（同18.4%増）

としております。

また、2021年3月期末の配当予想につきましては、新型コロナウイルスの影響により、

合理的に見積もることが困難であることから、未定としておりましたが、

安定的、継続的な配当の維持と通期の業績予想を踏まえ、

期末配当金は、1株当たり25円、

中間配当金25円と合わせて、1株当たりの年間配当金は、50円とさせていただきます予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,877	8,115
受取手形及び売掛金	11,250	9,367
商品及び製品	4,251	4,458
仕掛品	624	1,152
原材料及び貯蔵品	2,169	2,222
その他	410	672
貸倒引当金	△21	△18
流動資産合計	25,563	25,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,326	6,343
土地	11,967	11,969
その他(純額)	4,814	4,082
有形固定資産合計	22,108	22,396
無形固定資産		
ソフトウェア	127	129
その他	30	31
無形固定資産合計	157	160
投資その他の資産		
投資有価証券	5,966	7,061
長期貸付金	261	401
繰延税金資産	344	179
その他	694	770
貸倒引当金	△192	△192
投資その他の資産合計	7,074	8,220
固定資産合計	29,340	30,777
資産合計	54,903	56,746

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,179	3,674
短期借入金	3,203	3,202
未払法人税等	360	580
引当金	504	517
その他	1,959	1,460
流動負債合計	10,207	9,434
固定負債		
長期借入金	3,950	3,392
繰延税金負債	1,108	1,427
再評価に係る繰延税金負債	1,228	1,228
引当金	1	1
退職給付に係る負債	69	72
資産除去債務	81	81
その他	1,215	1,193
固定負債合計	7,655	7,396
負債合計	17,863	16,830
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	8,706	8,716
利益剰余金	11,396	12,451
自己株式	△1,712	△1,666
株主資本合計	29,586	30,698
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,146	1,914
土地再評価差額金	2,783	2,783
為替換算調整勘定	424	489
その他の包括利益累計額合計	4,354	5,186
非支配株主持分	3,099	4,030
純資産合計	37,040	39,915
負債純資産合計	54,903	56,746

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	17,549	19,420
売上原価	11,917	11,492
売上総利益	5,631	7,927
販売費及び一般管理費	4,819	5,134
営業利益	811	2,792
営業外収益		
受取利息	8	5
受取配当金	111	110
固定資産賃貸料	30	33
雑収入	82	92
営業外収益合計	232	242
営業外費用		
支払利息	32	25
為替差損	169	67
環境関連整備費	33	32
雑損失	16	9
営業外費用合計	252	134
経常利益	792	2,900
特別利益		
固定資産売却益	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産除却損	10	6
投資有価証券評価損	26	—
特別損失合計	37	6
税金等調整前四半期純利益	755	2,896
法人税等	127	664
四半期純利益	628	2,231
非支配株主に帰属する四半期純利益	65	978
親会社株主に帰属する四半期純利益	562	1,252

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	628	2,231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△542	767
為替換算調整勘定	△450	121
退職給付に係る調整額	△12	—
その他の包括利益合計	△1,005	889
四半期包括利益	△377	3,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△252	2,084
非支配株主に係る四半期包括利益	△124	1,035

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	755	2,896
減価償却費	705	718
引当金の増減額 (△は減少)	9	10
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△43	2
受取利息及び受取配当金	△119	△115
支払利息	32	25
為替差損益 (△は益)	76	15
有形固定資産売却損益 (△は益)	△0	△2
有形固定資産除却損	10	6
投資有価証券評価損益 (△は益)	26	—
売上債権の増減額 (△は増加)	2,991	1,891
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△481	△751
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,449	△498
その他の資産・負債の増減額	△225	1
未払消費税等の増減額 (△は減少)	62	△101
その他	79	8
小計	2,431	4,107
利息及び配当金の受取額	117	115
利息の支払額	△33	△26
法人税等の支払額	△416	△351
法人税等の還付額	46	52
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,145	3,898
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△19	△19
定期預金の払戻による収入	19	19
有形及び無形固定資産の取得による支出	△669	△1,525
有形及び無形固定資産の売却による収入	1	3
有形固定資産の除却による支出	△6	△2
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△15	△154
貸付金の回収による収入	14	14
差入保証金の差入による支出	△7	△101
差入保証金の回収による収入	31	19
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△650	△1,746

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△783	△560
配当金の支払額	△197	△197
非支配株主への配当金の支払額	△91	△104
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△1	△2
リース債務の返済による支出	△28	△61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,101	△926
現金及び現金同等物に係る換算差額	△170	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	221	1,235
現金及び現金同等物の期首残高	7,442	6,769
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,664	8,005

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性が欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	機能性色素	機能性樹脂	基礎化学品	アグロサイエンス	物流関連	計				
売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	5,337	5,774	3,590	1,797	973	17,472	76	17,549	—	17,549
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	84	90	86	—	753	1,014	43	1,058	△1,058	—
計	5,421	5,864	3,676	1,797	1,726	18,487	120	18,607	△1,058	17,549
セグメント利益又は損失(△)	279	276	206	△134	210	838	△28	810	1	811

(注1) 各セグメントの主な製品

(1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、各種染料等

(2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事
医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体

(3)基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料

(4)アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤

(5)物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性 色素	機能性 樹脂	基礎 化学品	アグロ サイエンス	物流関連	計				
売上高										
(1)外部顧客に 対する売上高	8,337	4,737	3,352	2,049	860	19,337	82	19,420	—	19,420
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	88	59	26	—	690	863	82	946	△946	—
計	8,425	4,797	3,378	2,049	1,550	20,201	165	20,366	△946	19,420
セグメント利益 又は損失(△)	2,559	△29	139	△48	155	2,777	14	2,791	1	2,792

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、PCR診断キット用材料、各種染料等
- (2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事 医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
- (3)基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料
- (4)アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
- (5)物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。